

2018年12月度のトピックス

12月24日

全国大会出場のため他クラブの応援に



この冬に全国大会に出場したふたつのクラブの応援に参加した。夏の京都大会決勝戦では全校生徒の応援をバックに試合したため、今回は部員の大声が追い風となるよう大声で盛り上げた。

23日の駅伝ではクラス代表で名乗りを上げ、2年生は主に西京極陸上競技場で、1年生は烏丸黎明の折り返し地点近くで沿道から応援した。目の前を走るクラスメイトの勇姿に感動し、我を忘れて大声を張り上げた。

24日のアメリカンフットボール決勝戦(クリスマスボウル)では公式応援団として、エールの交換を行った。チアや吹奏楽部に併せて、応援歌を連呼するだけでなく、試合後にはゴミ袋を持って積極的にスタンドのゴミを回収するなど、精力的に動き回った。

特に日本一へ三度目の挑戦となったアメリカンフットボールは勝利目前のゲーム終了直前に逆転を許し、スタンドの部員も茫然自失。第1クォーター終了時には大差で勝つと思ったが改めて勝負の厳しさを感じた。



12月15日

初の寮生委員会の会長に谷樹彦



生徒寮には現在、硬式野球部員が10数名お世話になっており、一大勢力となっている。生徒寮では生徒たちで委員会を作り、月に一度の寮生HRの運営やルール作りなど運営しているが、この度、硬式野球部の2年・谷樹彦が「誰も立候補しないなら、俺が」と自ら名乗りをあげ、会長に選出された。

生徒寮には2期生からずっと途切れることなくお世話になっている硬式野球部だが、寮生委員会の、しかも会長になったのは初。1年生の岩佐優樹も寮生委員に選ばれた。

春には多くの入部予定者が入寮予定であり、心強い。

12月9日

3年生VS現役の試合を実施



例年、夏の大会が終われば、3年生は現役メンバーの活動を最優先し、OB戦も行えぬままであったが、今年は3年生からの提案もあり、実現した。2学期期末テストが終了し、3年生も出願学部が発表になったところで、練習試合も先月末で終わったため、時期としてはベストであった。

1年生は全員裏方に徹したため、実質は「3年対2年」。序盤は投手戦であったが、中盤から打撃が活発に。また得点差が開き始めると、ビハインドチームの攻撃が無死満塁からとなるなど、自分たちで盛り上がるように工夫し、9回が行われた。結果は14対12と3年生の貫禄勝ちであった。

2018年11月度のトピックス

11月25日

一貫出身の池戸OBが大学で副主将に



この日の夜、里井監督に嬉しい知らせが入った。大学硬式野球部に所属する池戸祐多OB(3回生)が来年度の副主将に選ばれたというもの。OBが主将や副主将を務めるのは初めてではないが、池戸OBは立命館宇治中～立命館宇治高校と生粋の一貫生。4年前の選抜高校野球ではベンチ入りし、1塁のベースコーチを務めた。衣笠キャンパスではない学部に通うため、他の学生より困難な条件は多々あったはずだが、信頼感を勝ち得た結果である。

※写真は高校時代のもの

11月25日

1年部員4名がトレーニング講習会に参加



25日の日曜日、小春日和の中、わかさスタジアムで京都府高野連主催のトレーニング講習会が行われた。各チームから投手、捕手、内野手、外野手の4名の参加が認められており、里井監督が来年度を見通して、1年生の荒井(投手)、岩佐(捕手)、江本(内野手)、笠浪(外野手)の4名を指名。

社会人野球の強豪・日本新薬の選手から指導を受けた。午前中のトレーニング、スイング指導に続き、午後からは各ポジションに分かれての技術指導が行われ、充実した一日を過ごした。

11月23日

この週末3連休8試合が今シーズンラスト試合



23日(金祝)～25日(日)までの11月最終週末3連休が、今シーズン最後の練習試合となる。秋季大会以降、秋のメンバーにとらわれず、メンバーを固定せずに、チーム編成にも工夫を凝らし、多くの頑張ってきた部員にチャンスを与えてきた。この日も1年生のみで奈良大付属の1年生とダブルを行い、ここへ来て完投できる力をつけてきた1年生投手も出てきた。

春になれば新生を迎え、競争が激化するのとは必ず、今のうちにアピールしなければならないが、この週末8試合がラストゲームとなった。

11月23日

3年生6名が大学硬式野球部の練習に参加



夏の大会で現役を退いた3年生24名の中で、引き続き大学での硬式野球部の入部を希望する6名が、椋野の大学野球部練習に参加した。大学の練習はいくつのグループで行われているが、午前の部では大学授業に影響のないOBたちが集まってくれ、6名が力を発揮できるよう声かけなどしてくれた。

この学年はこの6名に加え、立命館から6名、立命館慶祥から6名、立命館守山から2名と、付属校だけで20名となり、後藤監督も「みんな頑張ってくれているので心強い」とのこと。4回生でエースとして活躍し、来春より社会人野球の名門・日本新薬に入社する山上大輔OBも挨拶に来てくれた。

11月3日

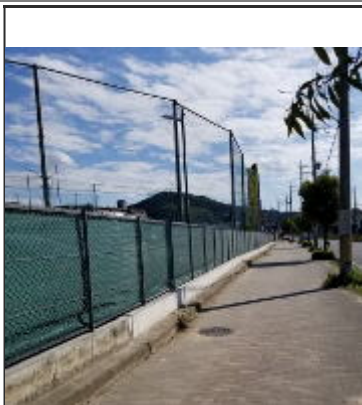
臨時打撃コーチは里井監督の後輩



写真は山内陵氏。ここ1ヶ月ほど、仕事の手が空けばグラウンドを訪れ、部員に指導してくれている。本校OBでも立命館大学OBでもなく、広島の名門・広陵OBで、大学は龍谷大学。最終学年では主将。中学時代は里井監督の出身チーム・京都ベースボールクラブで活躍した。当時から打撃センスは秀でており、里井・石川で足を運び、立命館宇治への進学を勧めたが実現しなかった。第82回選抜大会で対戦した有原投手(日本ハム)擁する広陵との対戦では、控え内野手として下級生でベンチ入りしていた。今はJR勤務で、「高校生を教えてみないか」と里井監督から誘われ、快諾。不思議な縁を感じる。

11月3日

府道側のブロック塀がネットフェンスに



先月から行われていた府道側のブロック塀取り壊し～ネットフェンス新設の工事が終了した。大阪北部地震以降、危ないブロック塀の点検が行われていたが、三室戸グラウンドの府道側のブロック塀は、旧宇治学園時代からのもので、大きな地震に見舞われれば倒壊の可能性がゼロとは言い切れなかったかもしれない。

新しく設置されたネットフェンスは軽量で、全て遮光ネットが張り巡らされているが、歩行者からでも野球の試合が行われているのがわかり、立ち止まって観戦する人もいる。

2018年10月度のトピックス

10月28日

OB中心の立命館大学に胸借りるも完敗



この日は洛南交流試合のBチーム変則ダブルが行われるため、メンバー14名を抽出し、立命館大学校野グラウンドで練習を行った。OBたちが顔をそろえてくれ、現役にアドバイス。里井監督曰く、「この上ない充実した時間であった」。

午後からは1.2回生中心の大学チームと練習試合。大学生側は先発9名中7名がOB。宇治は森井～高木とリレーした。前半戦は投手陣が制球に苦しみながらも1-1。しかし6回表に集中打を浴び、1-8とゴールド敗退。力の差をまざまざと見せつけられた。

10月28日

A.Bともに洛南交流試合を終了

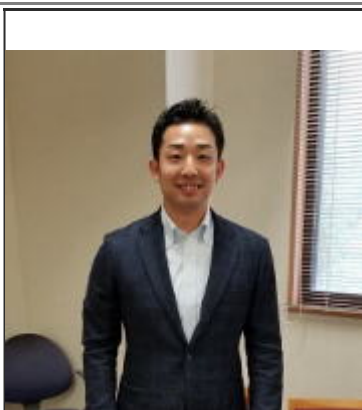


晩秋の恒例・洛南交流試合が20日より行われ、この日の変則ダブルでAチーム、Bチームともに全試合を終えた。Aチームは木津、西城陽、城南菱創。Bチームは京都八幡、菟道、久御山。ともに総当たりのリーグ戦を行った。秋季大会で出場の機会がなかったメンバーが中心に起用されたが、ともに3戦全勝。来春に向けて、指導陣に強烈なアピールとなったか。

この交流試合はいったん秋で終了。その結果をもとに、再び来春、交流試合が組まれる。

10月20日

10年前のOBが現役高校生のために講師



写真は10年前に卒業した岡島悠裕OB。この日、高校1年生のCSLの授業で、「働くとは」というテーマで講師として招かれ、講義してくれた。

卯瀧前監督2年目の夏・第90回選手権記念大会で、大会直前にエースが骨折しながら、二塁手の主将が急増エースになり、決勝戦まで勝ち上がり、準優勝したメンバーの一人。準決勝では選抜ベスト8の龍谷大平安に勝った。同期には現在、埼玉西武ライオンズで活躍する金子侑司OBがいる。産業社会学部卒業後、パナソニックへ入社し、2年間のアフリカ赴任。その経験を現役高校生に語ってくれた。

2018年9月度のトピックス

2018年度秋季京都府高等学校野球大会

9月24日

府道側のブロック塀を撤去し、新設工事



先の大阪北部地震以降、キャンパス内で老朽化の激しいブロック塀の点検が行われてきたが、野球部グラウンドの府道側のブロック塀もその対称となり、取り壊し～新設へと話が進み、工事が始まった。全てネットフェンスになり、府道を走る自動車が視界に入らないように遮光ネットが張り巡らされる予定。

ネットフェンスには大型車両が出入りできるように、現在と同じ位置に門扉が設置される。

9月9日

2次戦までの谷間に練習試合



秋季大会1次戦を1位で終えたため、2次戦の初戦は早くとも9月22日。今週と来週末は練習試合ができることになった。今日のホームグラウンドでの鳥羽B戦は2回が終了した時点で降雨ノーゲームとなったが、午後からアウェイで組んでいた八幡商業はもとも午後からのシングルであり、「グラウンド整備すれば何とか試合が可能」という連絡があり、1次戦メンバーをさらに絞り込み、10数名で試合に向かった。

試合は緊迫した投手戦となり、森井7回1安打～高木2回1安打とリレーし、9回裏のチャンスをものにして、サヨナラ勝ちした。

平成30年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

9月24日(月祝) 2回戦 対龍谷大平安 太陽が丘球場

森井、またも龍谷大平安相手に自滅

○ 龍谷大平安 010 014 100=7

● 立命館宇治 201 000 101=5

【龍】野澤、豊田、村尾-多田

【立】森井、高木-浅野

▼本塁打 今野(立)

▼3塁打 中島(龍)

▼2塁打 奥村、三尾(龍)

【寸評】立命館宇治は先発の森井は6回、先頭打者を追い込んでから死球を与える
と、次打者の犠打を野選とし、犠打の後、この試合2度目の暴投。1点差に詰め寄ら
れると、以降3安打を集中され、4点とビッグイニング与え、降板した。この試合では打
者を追い込んでから打者の肩口に当てる死球が4あり、3塁に走者を置いての暴投が2
度あった。せっかくリードを貰っても、自らの精神的弱さを夏の決勝戦に続き、露呈
した。

打線は初回、先頭打者・今野の本塁打と4番・森本のタイムリーで2点を先制し、1
点差に詰め寄せられた3回には3番・浅野のタイムリーで再び2点差とした。球威制球と
ともに苦しむ龍谷大平安3投手に対して、合計8安打を放ったが、1~4番までで7安打。
5番以降は1安打のみで、4番までが無三振に対して、5番以降で7三振を喫し、上位と
下位の結果が顕著に表れた。

現2年生は1年春、2年夏、2年秋と公式戦で龍谷大平安相手に3連敗。しかしこの展
開で勝たなければいつ勝つのかと思える自滅であった。

夏の決勝戦敗戦当日から、秋の頂点を目指してきたが、この段階での敗因は2年生
の伸び悩み。夏のトーナメント後半からの壁を克服したのはわずかに今野のみ。森
井・高木の両輪、1年前からメンバーとして起用され続けながら、ここへ来てチーム
を引っ張れないメンバーの奮起、新戦力の台頭がなければ、春も夏も明るい展望は開
けない。



写真は先頭打者本塁打を放った今野優斗(2年)

登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	森井 舜也	2	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
2	捕	浅野 彰久	1	精華西	シニア 奈良
3	一	森本 晃太郎	2	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
4	二	今野 優斗	2	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
5	三	古賀 風地	2	立命館宇治	中学野球
6	遊	星川 健太	1	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松
7	左	中村 滉成	2	石橋 (大阪)	シニア 豊中
8	中	吉村 仁	2	守口第一 (大阪)	ボーイズ 守口
9	右	上田 龍一郎	2	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
10	投	高木 要	2	桂	中学野球
11	捕	松本 幸農	2	山科	少年野球 百々エニオズ'
12	内	細川 淳之介	1	立命館宇治	中学野球
13	内	柳原 悠輝	2	寝屋川第一 (大阪)	ボーイズ 寝屋川
14	内	井上 義志郎	1	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
15	内	岡田 蒼司	1	彩都西 (大阪)	ボーイズ 箕面
16	外	谷 樹彦	2	天下茶屋 (大阪)	ボーイズ 堺中央
17	外	藤井 走日	2	伊川谷 (兵庫)	ヤング 神戸須磨
18	外	大住 秀太	1	城陽	シニア 京都木津川
19	捕	東部 光希	2	玉手 (大阪)	シニア 柏原
20	投	山崎 凱	2	立命館宇治	中学野球

1次戦

4月9日(日) 決勝 対朱雀・農芸・南陽・教大付連合 (立命館宇治三室戸G)

大量点コールドもバッテリーに甘さ

- 連 合 001 00 =1
- 立命館宇治 610 11X=18X
(5回コールド)
【連】小西、原田-山口
【立】森井-浅野
▼本塁打 古賀(立)
▼2塁打 浅野、吉村(立)寺田(連)

【寸評】立命館宇治は初回、失策と2四球から得た1死満塁のチャンスに、今大会初スタメンの5番・大住が三遊間を破り、2点を先制。以降、6番・吉村が右前打、7番・古賀が左前打、1番・中村が中前打と集中打を発揮し、合計6点を先行した。

2回には3番・浅野と吉村の2塁打で加点。4回には古賀の本塁打など長短6安打5四球で11点を挙げた。

先発した森井は「俺の球は打てまい」という過信と初回の大量点の安堵から、丁寧さを欠いた。各打者への入りが甘く、被安打6。全てストレートでファーストストライクを狙われたものが4安打あった。2次戦では一球の配球ミスやコントロールミスがゲームの勝敗を左右する。捕手を含めた課題が浮き彫りとなった。

立命館宇治は3試合連続コールドで1次戦勝ち抜き、11日(火)に2次戦の抽選会に挑む。



写真は先制2点タイムリーを放った大住秀太(1年)

4月26日(日) 2回戦 対同志社国際 (立命館宇治三室戸G)

3回9人攻撃で、ビッグイニング逆転

- 同志社国際 300 000 00=0
- 立命館宇治 116 001 01=10x
(8回コールド)
【同】 鎌水、石川-田村
【立】 高木-浅野
▼3塁打 今野、吉村(立)蓮井(同)
▼2塁打 浅野(立)井唯(同)

【寸評】1点を追う立命館宇治は3回1死から2番・今野が右翼線へ3塁打を放つと、続く3番・浅野が右翼へ2塁打を放ち同点。さらに連続四球で無死満塁の好機を迎えると、6番・吉村がフルカウントから右越えへ3塁打を放ち、さらに3点。8番・星川のスクイズ、ワイルドピッチでビッグイニングを作った。

打線はいきなり3点を追いかける展開となった。しかし焦ることなく1.2回と連続得点し、6回には4番・森本の犠飛、8回には先頭の浅野が左前打で出塁した後、代打・大住が左中間へ安打。最後は吉村が遊撃へ強襲安打を放ってコールドとした。

先発の高木は初回、安打と暴投の2死2塁から、打ち取った内野ゴロが失策となると、続く5番、6番に連続長打を浴び、あっさりと3点を許した。練習試合で好投できても、公式戦の立ち上がりの不安定は昨秋から続いており、この日も払拭されることはなかった。

2回以降は7回で被安打3、7奪三振と一定の安定感を示しただけに、残念なスター

トであった。

今大会は高木、森井の2名の投手しかベンチ入りしておらず、最悪の想定で中学時代に投手経験のある森本は控えているが、すっきりとしない試合となった。



写真は2安打を放った浅野彰久(1年)

4月25日(土) 1回戦 対城陽 (立命館宇治三室戸G)

攻撃軸不在で中盤まで消化不良

●	城陽	000 000 0=0
○	立命館宇治	002 010 4=7x (7回コールド) 【立】森井-浅野 【城】杉浦-南本 ▼3塁打 古賀(立)

【寸評】立命館宇治は3-0の7回、先頭の3番・浅野の中前打と四球、失策で無死満塁のチャンスを迎えると、6番・吉村が三遊間を破り4点目。なおも満塁から7番・古賀が右翼線に走者一掃の3塁打を放ち、コールドとした。

立ち上がりから相手投手の高めの球を見極められず、差し込まれる打球が続き、3回に1死2.3塁から浅野の内野ゴロ、4番・森本の左前打で2点を先制。5回にも森本の投手強襲打で3点目を入れたが、夏からのメンバーに爆発的な牽引力がなく、消化不良の攻撃が続いた。

先発した森井は5回まで失策の走者を許したのみで、6回に四死球と初安打で2死満塁とされた以外は危なげはなかった。7回で被安打1、11奪三振。



写真は4点目のタイムリーを放った吉村仁(2年)

登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	高木 要	2	桂	中学野球
2	捕	浅野 彰久	1	精華西	シニア 奈良
3	一	森本 晃太郎	2	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
4	二	今野 優斗	2	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
5	三	古賀 風地	2	立命館宇治	中学野球
6	遊	星川 健太	1	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松
7	左	中村 滉成	2	石橋 (大阪)	シニア 豊中
8	中	上田 龍一郎	2	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
9	右	吉村 仁	2	守口第一 (大阪)	ボーイズ 守口
10	投	森井 舜也	2	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
11	捕	松本 幸晟	2	山科	少年野球 百々ユニオンス ¹
12	内	細川 淳之介	1	立命館宇治	中学野球
13	内	柳原 悠輝	2	寝屋川第一 (大阪)	ボーイズ 寝屋川
14	内	井上 義志郎	1	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
15	内	岡田 蒼司	1	彩都西 (大阪)	ボーイズ 箕面
16	外	谷 樹彦	2	天下茶屋 (大阪)	ボーイズ 堺中央
17	外	藤井 走日	2	伊川谷 (兵庫)	ヤング 神戸須磨
18	外	大住 秀太	1	城陽	シニア 京都木津川
19	捕	東部 光希	2	玉手 (大阪)	シニア 柏原
20	内	福塚 真広	2	広野	ボーイズ 京田辺

[硬式野球部 TOP PAGE](#)△

2018年8月度のトピックス

8月22日

練習試合全日程を終え、秋季大会へ



週末から秋季大会が始まる今週は、先の選手権大会に出場した報徳学園(21日)、白山(22日)などと練習試合を行い、全日程を終了した。大ブレイクするような新戦力が現れず、夏に出場したメンバーが中心になりそうなのは寂しいが、ここまで大きなけが人もなく、23日の朝には背番号が渡された。

練習試合の成果だけでなく、投手交代をした時の野手の回し、ベースコーチ、ブルペンなどのベンチワークを総合的に判断し、最後は幹部にも意見を聞き、監督が最終判断した。入部以降、初めて背番号を手にした者もいるが、秋季大会は登録制ではなく、1試合ごとにメンバーを入れ替えられる。まだまだ勝負が決したわけではない。

8月11日

立宇治レジェンドが揃ってグラウンドへ



写真右は古川昂樹OBで左は小林真人OB。同級生で第93回大会準優勝の主将(古川)と副主将。2年春にセンバツ出場し、古川OBは4番サード。小林OBはベンチ入り。3年春は京都大会優勝で、近畿大会初戦では2年生エースの藤浪擁する大阪桐蔭にも勝った。大学では4回生で春秋リーグ戦優勝。古川OBは主将で首位打者をはじめ6冠王。そして小林OBは秋のリーグ戦で首位打者。今後、立命館宇治の硬式野球部が100年続いても、春と秋の首位打者が本校OB二人が独占することなどあり得ないまさにレジェンド。古川OBは社会人野球・大阪ガスで先の都市対抗で優勝。

今でも本校教員は歴代リーダーで最も優れた二人にこのふたりを挙げる。リーダー不在の新チームがこのレジェンドにどのように映ったか??

8月9日

東海関東遠征記4 井の中の蛙に大海は見えたか



首都圏を通過した台風の影響で、最終日の東海大相模は午後からの1試合のみに。門馬監督曰く「新チームは横浜、桐光、慶応、相模の私学4強の中で最弱」とのことであったが、1～5番まで1年生が並ぶ東海大相模打線に、高木～森井は4被弾し、0-10と過去に例がないほどの完敗。本塁打以外の得点はなく、投手の精度が全国レベルではなかった。

この遠征では団体行動やチームルールでスタッフから厳しく指導される場面が多々。関西で通用した「井の中の蛙」が大海を見て、井戸の中へ戻るのか、それとも全国レベルを求めて大海へ飛び込むのか、これから見ものである。

8月8日

東海関東遠征記3 2班に分かれてミーティング



本来桐光学園に配達される予定であった昼食弁当を、ホテルへ届けて貰い、午後からは2時間弱の仮眠。そして再び学習室に分かれて、野球教室が行われた。

ひとつのグループは卯瀧先生による戦略・戦術面での基本的考え方。基本的な運動能力には恵まれていても、まだまだ野球を考える「野球頭」は未熟。過去の指導経験からこの時期にこのラインまでは必要という話をしていただいた。

もうひとつのグループはさらに基本的なことで、岩崎副部長から「エースとは」「背番号をつけてプレーするとは」「試合に入る前の視点と心構え」など。何も考えずに試合に挑んでいる部員があまりにも多く、その準備不足が結果に繋がっていないとの観点から、最後はスコアブックを「縦に見る」「横に見る」という話にまで及んだ。



この遠征では長時間のバス移動を睡眠だけにあてるのではなく、高校野球や他の分野で厳しい状況で頑張るドキュメンタリーをDVDで流しているが、部員たちの目にはどう映っているか。つい2週間ほど前の閉会式で流した涙が、単なるパフォーマンスなのか、心の底からにじみ出したものなのか、その真価が問われる。

8月8日

東海関東遠征記2 雨天中止で急遽勉強会



関西を含めて晴れマークが出ているのに、何とも悔しいが、この日の関東圏は台風接近で朝から雨。いったん桐光学園へ向かったが、グラウンド状況が悪く、挨拶だけ済ませて、ホテルへ戻った。すぐにホテル横の教育棟の大部屋を借り、夏休みの宿題勉強会。前もって遠征要項と前日ミーティングで宿題持参を指示しており、わからないところは相談して、宿題をこなした。

東海関東遠征で台風に見舞われるは初めてではないが、これも良い休養と、24日までに完成しなければならぬ宿題の前進と前向きに捕らえたい。

8月7日

東海関東遠征記1 求めていた高レベル



負けて初めてわかる教訓や自らの弱点は多々ある。それを求めて毎年高いレベルの相手に胸を借りる。この日はかつて福知山成美を率いて京都の高校球界をリードした田所監督の岐阜第一。先の岐阜大会ではベスト4へ進出し、そのメンバーが全員残る。投手は制球良く、しかも140kmを越えた。この時期にこれだけ仕上がっていると、ディフェンス面でのミスが命取りとなる。立命館宇治の投手陣も踏ん張り、実にテンポ良い試合となり、1試合1時間40分ほどのロースコア展開でダブルを終え、関東へ移動した。

8月4日

今年は無敗で東海関東遠征へ



夏の決勝戦当日夕刻からスタートした新チームだが、里井監督から石川部長へのお願い。「新チームでは○試合○勝○敗と言わないで下さい」。旧チームは投手陣が豊富で、数イニングを任せられる投手が数名いた。しかし新チームでは、夏を経験した高木、森井以外は未知数。そしてこの二人を酷使することは出来ず、未知数の他の投手陣がある程度打たれることは覚悟の上で練習試合に挑まなければならない。

この日の和歌山の練習試合ダブルでは、夏以来初めて高木、森井がそろい踏み。第1試合では高木が箕島相手に完封。被安打2の奪三振11と気を吐けば、続く近大新宮では負けじと先発した森井が5回で奪三振10と奮投した。

無敗のまま遠征に入るが、桐光学園・東海大相模にどんな投球をするか、楽しみである。

8月3日

熱戦!! 初の立命館交流試合を実施



10年前に学園の上層部から「立命館野球の弱点は指導者が育っていないことだ」と言われたことがある。しかし近年は教員となって指導する人材が増えてきた。この夏の甲子園に出場する報徳学園の大角監督、昨夏は明豊の川崎監督、昨春は福岡大大濠の八木監督など。またこの夏の京都大会では東山の足立監督、立命館宇治の里井監督がベスト4以上に入った。立命館の吉田監督や立命館守山の秋武監督も立命館OB。そんな指導者が一同に介する交流戦が2年前より計画され、この日実現した。

立命館宇治の対戦は報徳学園が甲子園出場のため、急遽、自由が丘(兵庫)と箕面自由学園となった。

硬式野球部 TOP PAGE^

2018年7月度のトピックス

第100回全国高等学校野球選手権記念京都大会 速報

7月30日

吉村新主将が秋季大会抽選会に挑む



この日は龍谷大平安で秋季大会1次戦の抽選会が行われた。同校で抽選会が行われるのは初めてであるが、まずは校舎に大きく掲げられた「祝甲子園出場」の垂れ幕に闘志も新たにした。

部長からは「どこでもいい」と言われて51番目にクジを引いた吉村主将は「塔南、立命館、京都翔英が集まるブロックに空きがあり、そこを引くのではと思った」とのことであったが、予想は外れ、同じ南部の城陽と、勝てばこれまた南部の同志社国際との対戦が決まった。

7月27日

敗戦午後から練習、翌日練習試合スタート



決勝戦敗退後、「お疲れ様でした。ゆっくり休んで下さい」と言葉をかけられるが、新チーム練習はその日の夕刻からスタート。秋季大会は来月下旬から始まり見、大会序盤に敗れたチームとはもう2週間以上の差がついている。

新チームの練習試合は7月27日から組まれていた。これを断らず、早くも練習試合がスタート。夏のトーナメントでは試合に出ている2年生が後半明らかに「失速」し、3年生がそれをカバーした。夏のベンチ入りメンバーに秋のメンバー入りは保証されていない。全てはゼロからのスタートである。

7月26日

531人の高校生がわかさスタジアムへ集結



決勝戦のこの日、わかさスタジアム京都には部活動を急遽休みにして、多くのクラブ員が応援に駆けつけてくれた。チケット枚数は当初の予想を大きく上回り、531名の高校生がスタンドで応援。中学生、教職員を含めると、600人を上回る大応援団となった。

試合の結果は残念であったが、準々決勝、準決勝での戦いぶりは全校に勇気と感動を与えた。試合後

にグラウンド内ではフォックス校長から、労をねぎらい、感謝の言葉が述べられた。

7月21日

こちらも大切な大会前。中学野球部が練習



夏休みの初日、午後2時より立命館宇治中学の野球部が、三室戸Gで大会前の練習を行った。この日は黄檗球場で宇治市大会の開会式があり、翌日の試合に備えて、高校のグラウンドを訪れたのだが、高校野球部も翌日の試合に備えて、早々と練習を切り上げており、グラウンドを開放した。

高校で活躍する付属出身のOBが練習に付き添い、ともに翌日の試合での健闘を誓い合った。

7月9日

豪雨で異例の5日ぶりの練習再開



週末に西日本が襲われた豪雨の影響で、学校は金曜日から臨時休校。日曜日まではクラブ活動も禁止という学校判断であった。金曜日がテスト最終日で、夏に向けての全体練習再開が予定されていただけに、夏のメンバーは少々フラストレーションが。この時期に4日連続で練習できなかった過去は記憶にない。

今日13時からの開会式を終えたメンバーは、出場75校中一番にわかさスタジアムを後にして、三室戸グラウンドへ戻った。丁寧にグラウンド整備を行い、練習再開。グラウンドに大きな声が響き渡った。

幸いにも初戦は15日。まだまだ調整期間はある。

7月1日

大会前、審判講習会のモニター校として協力



夏の選手権大会を前にして、審判講習会でモニター校としてわかさスタジアムで動き回った。春季大会準優勝を受けてのもので、モニター協力は久しぶりとなった。テスト直近のため、午前半日のみとなったが、投球判定、打球判定、フォースプレーなど指示に従って、少人数ながら精力的に動き回った。

3年生にとっては思い出深い、そして2年生にとっては新チーム以降を見据えて、メイン球場でのプレーは有意義な時間となったはずである。

第100回全国高等学校野球選手権記念 京都大会 速報

4月26日(木) 決勝 対龍谷大平安 (わかさスタジアム京都)

この敗戦を価値あるものとするか

- 立命館宇治 000 000 000=0
- 龍谷大平安 103 202 03x=11
【立】森井、西成-大住優
【龍】小寺-田島
▼3塁打 松本(龍)
▼2塁打 水谷2、松本、馬場(龍)

【寸評】「何とか接戦に持ち込みたい」という全員の思いとは逆に、今大会すぎまじい破壊力を発揮する龍谷大平安打線を相手に点差は回を追うごとに開く一方で、大敗した。

先発は今大会比較的投球数が少なく、抑えの切り札として登板してきた森井が先発したが、緊張感からか球が上ずり、被安打1ながら2回で6四死球と自らの失策で3点を献上し、早々に降板した。リリーフした西成は懸命に火を消そうとしたが、火の付いた龍谷大平安打線を止めることは出来なかった。

攻撃陣は2回1死3塁、5回には5番・大住優、6番・ト部の連打などで2死2.3塁のチャンスをつかんだが、それ以外は完璧に封じ込められた。

トーナメントの頂点を目指して戦ってきた今大会であったが、この決勝戦では全ての面において龍谷大平安が上回っていた。1年前の決勝戦で悔しい思いをした龍谷大平安の優勝に対する執念を肌で感じ取ったメンバーが、次のチームにこの経験を生かしてこそ、価値ある大会になったといえる。



4月25日(水) 準決勝 対京都国際 (わかさスタジアム京都)

9回裏、絶体絶命のピンチ乗り切り

- 立命館宇治 001 001 000 5=7
- 京都国際 000 020 000 0=2 (延長10回)

【立】高木、西成、森井-大住優

【京】生駒、酒井-中村

▼3塁打 今野(立)

▼2塁打 西2、井上、森本、上田、西成(立)

【寸評】立命館宇治は9回裏、2死2塁のピンチに右前タイムリーを放たれ、万事休すかに思われたが、右翼手のト部がホームヘストライク返球。間一髪でサヨナラの走者を刺し、延長戦に突入した。

延長10回表、先頭の2番・西が右中間2塁打で出塁すると、頼みの3番・井上はフライアウトに倒れたが、ここで代打攻勢をかけ、4番の代打・浅野が死球で出塁(代走保田)、5番・大住優のスライズで勝ち越し点を奪うと、6番・ト部がセーフティバントで満塁とし、7番・今野の代打・上田が右翼線に落として2者を迎え入れてさらに2点追加。最後は9番・西成が鮮やかに左中間を割って、合計5点と勝負を決めた。

試合は7回まで毎回スコアリングポジションに走者を進め、計12安打を放ちながら、2点にとどまるなど、重苦しい展開に。逆に守りのミスから5回に逆転されると、さらに重苦しさに拍車をかけた。

先発は準々決勝で2回降板した高木要。「決して球は悪くなかった」というスタッフの思いから、リベンジ登板の機会を与え、5回までゲームメイク。後半は西成が辛抱し、最後は森井で締めくくった。

立命館宇治は3年ぶりに決勝戦へ進出。2回戦から全てコールドゲームで勝ち上がった王者・龍谷多声平安の胸を借りる。



準々決勝のリベンジ登板、5回までゲームメイクした高木要(2年)

4月23日(月) 準々決勝 対鳥羽 (わかさスタジアム京都)

高木～西成～森井と懸命の継投

- 立命館宇治 000 023 000 01 = 6
- 鳥羽 022 000 010 00 = 5 (延長11回)
- 【立】高木、西成、森井-大住優
- 【鳥】小林、谷内-橋口、吉田
- ▼3塁打 松竹(鳥)
- ▼2塁打 小山、小林、橋口(鳥)、井上(立)

【寸評】立命館宇治は同点で迎えた延長11回、1死から7番・古賀が死球で出塁すると、途中出場の8番・星川が右前へ転がし1.2塁。二死となった後、1番・中村が追い込まれながらも右前へ運び、待望の勝ち越し点を挙げた。この1点を森井が渾身の投球で、11回裏を三者凡退で退け、熱戦についに終止符を打った。

試合は2回、3回にそれぞれ2点ずつ取られ、4点を先行される苦しい展開。5回に2死1.2塁から5番・大住優の左前タイムリーなどで2点を返し、続く6回には内野ゴロで1点差とした2死2.3塁から4番・森本が左前へ逆転のタイムリーを放った。

2回途中から高木をリリーフした西成は相手打線のしつこい攻撃に苦しみながらも、相手の反撃を断ち、8回から森井がリリーフ。内野ゴロで同点に追いつかれたが、勝ち越し点は許さなかった。

3時間半以上に及ぶ試合となったが、満を持して登板した高木が早々と捕まり、記録は安打となったが、内野のミスが相手に先行を許す展開となった。



5回、大住優賀(3年)のタイムリーが反撃ののろしとなった

4月22日(日) 4回戦 対洛西 (わかさスタジアム京都)

5回11人攻撃でビッグイニング

● 洛西 000 001 0 = 1

○ 立命館宇治 010 060 1 = 8x

(7回コールド)

【洛】鳥井-箱崎

【立】西成-大住優

▼2塁打 中村、大住優2(立)高橋、注連(洛)

【寸評】立命館宇治の5回、9番・今野、1番・中村の連続安打などで迎えた1死満塁の好機に、4番・森本の左前打で2点を追加。さらに押し出しや犠牲フライなど11人攻撃で6得点とビッグイニングを作った。

1点を返された7回には、先頭の5番・大住優を置いて、途中出場の7番・ト部が左前へ落として、コールド得点差とした。

先発した西成は7回で被安打5、8奪三振で2四球と、回を追うごとに「らしい」投球となった。

立命館宇治はベスト8へ進出し、明日23日(月)18時半より準々決勝で鳥羽と対戦する。



5回に貴重な2点タイムリーを放った森本晃太朗(2年)

4月18日(水) 3回戦 対西城陽 (わかさスタジアム京都)

「投手」不調も、「打者」西成が逆転打

- 西城陽 003 000 000 = 3
 - 立命館宇治 000 041 13x = 9x
- 【西】山中、安井-杉本
【立】西成、森井-大住優
- ▼2塁打 西成、井上(立)衣川(西)

【寸評】立命館宇治の先発・西成は1.2回打者6人で退ける立ち上がりであったが、3回先頭打者を振り逃げ三振で出塁させると、追い込んでから高めに浮いた球を捕らえられ、バックの失策も絡んで3点を先制された。

攻撃は高めにストレートを打ちに出て、フライアウトを重ね、4回まで0行進。雰囲気を変えたのは5回先頭の9番・今野のセーフティーバント。1死1.3塁から2番・西がスクイズを決めて1点を返し、4番・森本の内野ゴロが相手失策を誘い、さらに1点。さらに2死1.2塁から西成が左中間へ渾身の逆転ツーベースを放った。

6回には2死3塁から3番・井上が追い込まれながらも技ありの中前打、7回には1死満塁から9番・今野が犠牲フライ、8回には長短4安打を集めて、じわじわと相手を突き放した。

6回から西成をリリーフした森井は4イニング5奪三振、3四球、被安打2で、西城陽打線を0封した。

立命館宇治は7月22日(日)、第2試合でベスト8進出をかけて、洛西高校と対戦する。



2安打で打点2と牽引した井上光志郎主将(3年)

4月7日(日) 2回戦 対大江 (太陽が丘球場)

序盤から猛攻、6回コールド

● 大 江 000 002 = 2
○ 立命館宇治 144 003 = 12x

(6回コールド)

【大】 廣瀬-村越

【立】 森井、田村-大住優

▼3塁打 今野(立) ▼2塁打 中村、森本(立)村越
(大)

【寸評】 立命館宇治は初回、無死3塁から内野ゴロで先制すると、2回には1死2.3塁から9番・今野の右前打、3番・井上の左前打などでさらに4点を追加。3回にも3安打で4点を追加し、序盤から試合を優位に進めた。

秋以来の公式戦先発となった森井は制球良く、5回で被安打1、奪三振6の1四球で3塁を踏ませなかった。6回から登板した田村は長打を含む3安打を打たれ、2点を献上した。

試合は7回にも今野、1番・中村の連続長打の後、7番・古賀が2死満塁から押し出しの四球を選び、10点差とした。



先発し、5回を0封した森井舜也(2年)

大会登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	西成 湫石	3	桃陵	ボーイズ 枚方
2	捕	大住 優賀	3	城陽	シニア 京都木津川
3	一	森本 晃太郎	2	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
4	二	西 祥太郎	3	桜井西 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
5	三	古賀 風地	2	立命館宇治	中学野球
6	遊	今野 優斗	2	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
7	左	中村 滉成	2	石橋 (大阪)	シニア 豊中
8	中	井上 光志郎	3	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
9	右	上田 龍一郎	2	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
10	投	高木 要	2	桂	中学野球
11	投	田村 竜一	3	加茂川	ボーイズ 京都洛中
12	捕	横田 雄太郎	3	榛原 (奈良)	中学野球
13	捕	浅野 彰久	1	精華西	シニア 奈良
14	内	大住 秀太	1	城陽	シニア 京都木津川
15	内	星川 健太	1	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松
16	内	田中 優寿	3	立命館宇治	中学野球
17	外	卜部 大輝	3	立命館宇治	中学野球
18	外	保田 悠介	3	楠葉西 (大阪)	ヤング 枚方ヤングホークス
19	投	森井 舜也	2	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
20	投	前田 丈太郎	3	シガホール日本人学校 (海外)	中学野球

硬式野球部 TOP PAGE^

2018年6月度のトピックス

6月23日

選手権100回大会記念Tシャツを全員着用



夏の選手権100回大会を記念して、チーム全員がTシャツを購入。この日の激励会で全員が着用し、お披露目となった。この3学年のみが経験できる節目の100回大会であり、3年生の意向を尊重して、デザインもミズノから提供された数パターンの中から、このデザインを選んだ。

チームの公式Tシャツとして、グラウンドの中で着用が認められており、部員にとっては「100回大会に参加した証」として、一生ものの記念品になるはずである。

6月23日

抽選会終了後に保護者会主催の激励会



夏の抽選会が行われた夕刻、三室戸グラウンドの室内室内練習場で、保護者会主催の激励会が行われた。西成会長から激励の挨拶をいただいた後、朝日新聞座談会出席のため不在の里井監督に代わり、石川部長が挨拶。井上主将から夏の大会への決意表明とお礼の言葉が述べられた。その後は保護者が丹精込めて仕上げた下さった千羽鶴や記念タオルを全員分受け取り、記念撮影を行った。

75番という最後のくじをひいたため、大会への登場は大会8日目と出場校中最後となるが、まだまだ課題はあり、最後まで気を引き締めたい。

6月7日

今年はわかさスタジアムで、メモリアルゲーム



昨年続き、立命館とのメモリアルゲームが行われた。昨年は初の試みで皇子山球場で行われたが、今年は地元のわかさスタジアムで18時からのナイター試合となった。ベンチ入りできるのはともに3年生のみで、なるべく試合に出られなかった者から優先的にという取り決めで、2年生以下は全て応援・裏方に回る。

前日からの雨も朝には止み、カクテル光線の中で、試合は行われ、今年は昨年の打撃戦とは異なり、ロースコアの展開に。

そして試合後にはともに夏の健闘を誓い、合同記念撮影を行った。

6月4日

履正社、東洋大姫路など8連勝で再スタート



春季大会決勝で乙訓に敗れた翌週から、練習試合が再開。例年通り土日はほぼ毎年お世話になる甲子園経験校。先週は春季四国大会準優勝の聖カタリナに連勝し、翌日には履正社にも連勝。この週末は高松中央と東洋大姫路にも10点差以上の大差で、現在まで8連勝。

ここから以降、高知、金光大阪、海星、中京学院中京、敦賀気比、関西などの実力校相手に、どこまで通用するか。好投手とロースコアの展開になった時に、いかにして点を取るのかなど、夏に向けて真の力をつけていく戦いに挑む。

※写真は聖カタリナ戦(写真提供・保護者会)

硬式野球部 TOP PAGE^

2018年5月度のトピックス

2018年度春季京都府高等学校野球大会

5月15日

体育祭「韋駄天杯」は史上初の2年連続優勝



体育祭で校内最速走者を決定する「韋駄天杯」。全校生徒の最も注目を集める50メートル走だが、今年も昨年に続き、硬式野球部の井上光志郎が制した。2年連続は史上初。

またクラブ対抗リレーでは昨年はアンカー長谷川弘がサングを抜いて逆転勝ちしたが、今年は1走の宮本が首位を奪うと、以降1位を他チームに譲ることなく、アンカー井上へ。この時点で優勝は確固たるものになった。

5月15日

体育祭の開会式で他クラブとコラボ



15日、体育祭が実施され、硬式野球部員が開会式で、吹奏楽部・チアリーダー部とコラボして応援パフォーマンスを行った。生徒会の提案を受けた企画で、5つの各団全てにエールを送るというもの。「やるなら堂々と格好良く」というスタッフの思いも込めて、事前打ち合わせにいったメンバーからの指示で、ほぼぶっつけ本番であったが、大きなグラウンドに響き渡る声は場を大きく盛り上げた。

学園祭では受付などの役割を引き受けるが、体育祭では春季大会中でもあり、なかなか協力できなかった。これが良い伝統となることを期待したい。

平成30年度

春季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

5月20日（日） 決勝 対乙訓 （わかさスタジアム）

番 先制許し、終始主導権握られ、完敗

○ 乙 訓 300 030 001=7

● 立命館宇治 000 200 000=2

【乙】長谷川、富山-蒔谷

【立】千葉、田村、高木-大住

▼3塁打 茨木、中川(乙)

▼2塁打 大西(乙)中村(立)

【寸評】

立命館宇治は初回到3点を先制され、4回に相手ミスから1点差に詰め寄ったが、5回に再び3点を取られると、良いところなく完敗した。

公式戦初先発した千葉は練習試合での好投が期待されたが、立ち上がり際に打球を見切られ、真ん中付近に集まる球を逆方向に痛打された。積極的に変化球を狙い、逆方向へ打ち返す乙訓打線が上回っていた。

今日の試合で春季大会6試合で登録メンバー20名全員が試合に出場し、夏への経験を積んだが、乙訓との差は縮まるどころか広がっているということを謙虚に認め、各自が夏に向けてブラッシュアップしなければ、夏の頂点は遠のくばかりである。

準決勝では先発メンバー9名中7名が1.2年生であった。決して下級生が抜群に秀でているわけではない。ラストサマーに向けて、3年生23名全員の思いが結集し、奮起することが期待される。



5月19日（土） 準決勝 対京都翔英 （わかさスタジアム）

番 不調の2年投手を3年投手陣が渾身リリーフ

- 京都翔英 200 003 000=5
- 立命館宇治 113 001 02x=8x
【京】今井、岩井-鈴木
【立】高木、秋森、田村-大住
▼2塁打 森本、上田(立)新田、山本仁(京)

【寸評】

両チームともに投手陣が制球に苦しみ、締めりのない展開となった。6回表に同点にされた直後、相手バッテリーのミスで勝ち越すと、重苦しい雰囲気での1点差で終盤を迎えたが、8回裏に2死満塁から7番・古賀が追い込まれながらも2塁越えタイムリーを放ち、貴重な2点を追加し、逃げ切った。

試合の大誤算は先発した高木の乱調。初回到に3四死球、2失策で2点をあっさり献上。その後も6回1死まで合計9四死球と荒れに荒れ、チーム全体がリズムに乗りきれない展開となった。3回には自ら勝ち越すタイムリーを放ちながら、3年生投手陣にリリーフを仰いだ。

リリーフした秋森は同点にはされたが、その後粘り強く投げ、8回からは公式戦初登板の田村が2イニングを0封した。

攻撃陣は7回の三者凡退以外は毎回スコアリングポジションに走者を置きながら、12残塁と守りのリズムの悪さが攻撃にも波及した。

立命館宇治は4年ぶりの決勝へ進出。勝てば7年ぶり4度目の優勝となる。



写真は公式戦初登板で渾身のリリーフをした田村竜一(3年)

5月11日(土) 準々決勝 対北嵯峨 (わかさスタジアム)

番 初回11人攻撃でビッグイニング

- 北嵯峨 000 100 0=1
- 立命館宇治 600 101 x=8x (7回コールド)
【北】市田、高木-中西
【立】西成-大住
▼3塁打 井上(立)

▼2塁打 西成、井上(立)

【寸評】

初回1死から四球の西を1塁に置き、3番・井上が左越3塁打を放ち先制。野選で2点目を入れると、6番・西成が右前打、9番・今野が三遊間、最後は満塁から1番・中村が左前打を放ち、合計6点と立ち上がりから試合を大きく支配した。

4回には2死1塁から井上が3塁線2塁打、6回にも無死2.3塁から井上が犠飛を上げた。

先発した西成は4回バックの連続失策で1点を与えたが、自責点ゼロ。被安打3、1四球、毎回の7奪三振で北嵯峨打線を封じた。

立命館宇治は3年ぶりの4強シードを獲得。5月19日に京都翔英と対戦する。京都翔英とは昨秋1次戦ブロック決勝戦で対戦し、16-1で勝ったが、2次戦では京都翔英がトーナメントを勝ち上がり、準優勝。立命館宇治はセンバツ出場の乙訓に準決勝で敗れ、3位に甘んじた。

メンバー変更

背番号5

【新】 森本晃太郎 (2年)

【旧】 井上義志郎 (1年)



写真は2安打3打点と活躍した井上光志郎(3年)

5月3日(木祝) 1回戦 対大谷 (峰山球場)

序盤に逆転し、中押し、ダメ押しで制す

●	大谷	100 000 000=1
○	立命館宇治	020 100 01x=4x
		【大】山本-池永
		【立】西成-大住
		▼本塁打 杉浦(大) ▼3塁打 田中(大)
		▼2塁打 西成(立)小杉(大)

【寸評】

初回到1点を先制された立命館宇治は、2回四球の大住を1塁に置いて、6番・西成が左中間を破り同点、1死3塁から8番・古賀が右前へ鮮やかにタイムリーを放ち逆

転した。4回には1死2.3塁から9番・西が中前へ中押しタイムリー。8回には暴投でダメ押し点をもらった。

危ない展開ではなかったが、4回までで7安打を放ちながら、5回以降は1安打。相手エースから9四死球を貰いながら10残塁と消化不良気味の攻撃で、送りバントを含めて進める打撃が出来なかった。

練習試合で負傷した森本晃太郎(2年)に代わり、古賀風地(2年)が公式戦初先発。初打席で逆転タイムリー、3補殺と攻守に澁刺とした動きを見せた。

先発した西成は初回到初球を本塁打されたが、制球良く無四球。9奪三振で追加点を許さなかった。

これで立命館宇治は夏の選手権京都大会のシード権を獲得。ベスト4進出をかけて、5月12日(土)、わかさスタジアムで北嵯峨と対戦する。

メンバー変更

背番号5

【新】 井上義志郎 (1年) 大庄中(兵庫) 甲子園/シニア

【旧】 森本晃太郎 (2年)



写真は公式戦初先発で活躍した古賀風地(2年)

1次戦

4月22日(日) 決勝戦 対立命館 (立命館宇治三室戸G)

番 西成、強打立命館を内野安打3に

- 立命館 001 000 0=1
- 立命館宇治 710 100 x=9x (7回コールド)
 - 【立】 山内、山岡-田中
 - 【宇】 西成-大住
 - ▼本塁打 大住(立)
 - ▼2塁打 井上、西成(立)

【寸評】

立命館宇治は初回2死走者なしから井上の3塁線2塁打と連続四死球で2点を入れた後、満塁から8番・西成が左中間を破りさらに3点、1番・中村のタイムリーなどで初回到ビッグイニングを作った。2回には5番・大住が本塁打を放つなど、序盤から試

合は優位な展開となった。

久々の公式戦先発となった西成は、入部以降初の「1」を背負ったが、大量点を貰いながら不安定になる回があり、1点を献上。強打の立命館打線を内野安打3に抑えたが、まだまだ課題はあった。

立命館宇治は2年連続で春の1次戦を突破し、2次戦は夏のシード権をかけて、5月3日(木祝)に峰山球場で大谷と対戦する。



写真は久々の公式戦先発完投の西成漱石(3年)

4月21日(土) 2回戦 対桂 (立命館宇治三室戸G)

番 コールド発進、高木、内野安打1で0封

○	立命館宇治	210	210=15	
●	桂	000	0 0=0	(5回コールド)
			【立】高木-大住	
			【桂】石田、山本-瀧本	
			▼本塁打	上田(立)
			▼2塁打	大住、浅野(立)

【寸評】

立命館宇治は初回無死3塁から2番・西が三遊間へタイムリー、6番・福塚の犠飛と併せて2点を先制し、4回には満塁から5番・大住の左前打で加点。続く5回には7番・上田の3点本塁打を含む15人攻撃で大量10得点でコールド勝ちした。

先発した高木は先頭打者に四球を出し、内野安打でスコアリングポジションまで走者を進められたが、その回を乗り切ると、2~5回までは3人ずつで退けるパーフェクトで締めくくった。

立命館宇治は明日のブロック決勝戦では立命館との対戦が決定。3年ぶりに公式戦で付属校対決が実現する。



写真は初回に先制打を放った西祥太郎(3年)

登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	西成 漱石	3	桃陵	ボーイス 枚方
2	捕	大住 優賀	3	城陽	シニア 京都木津川
3	一	福塚 真広	2	広野	ボーイス 京田辺
4	二	西 祥太郎	3	桜井西 (奈良)	ボーイス 奈良葛城
5	三	森本 晃太郎	2	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
6	遊	今野 優斗	2	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
7	左	中村 滉成	2	石橋 (大阪)	シニア 豊中
8	中	井上 光志郎	3	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
9	右	上田 龍一郎	2	三田学園 (兵庫)	ボーイス 三田
10	投	田村 竜一	3	加茂川	ボーイス 京都洛中
11	投	高木 要	2	桂	中学野球
12	捕	横田 雄太郎	3	榛原 (奈良)	中学野球
13	捕	浅野 彰久	1	精華西	シニア 奈良
14	内	古賀 風地	2	立命館宇治	中学野球
15	内	星川 健太	1	神久呂 (静岡)	ボーイス 浜松
16	内	久我 将吾	3	桂	ヤング ビュールBBC
17	投	秋森 晃希	3	枚方 (大阪)	シニア 高槻
18	投	千葉 楓斗	3	上海日本人学校 (海外)	その他 上海ツインズ
19	外	卜部 大輝	3	立命館宇治	中学野球
20	外	福西 峻介	3	上北山 (奈良)	ボーイス 宇陀

2018年4月度のトピックス

4月24日

こちらは新顧問、待望の西田亮先生



写真は保健体育科の西田亮先生。名門・東福岡出身の元高校球児で、少年野球や高校での指導歴もある。7年前に本校に着任した時に現スタッフから、硬式野球部の顧問にと要望されたが、「まずは中学を、まずは保健体育を」となかなか実現しなかった。

しかし今春の校務編成で、待望の硬式野球部顧問として名を連ねることになった。この7年間も「来るべき時に備えて」と熱心に勉強しており、この日の朝練でも水口指導員が体幹を鍛えるトレーニングを行った後、テニスボールを使った脳神経系を鍛えるトレーニングを紹介。ゲーム感覚のところもあり、部員も熱心に取り組んでいた。

4月17日

朝練の鬼軍曹、3年ぶりの復活



写真は本校教員の水口貴之先生。ここ10年間のOBで彼の顔を知らない者はいない。かつて硬式野球部の顧問であった縁で、それ以降もずっと朝練を見てくれていた。

立命館宇治2期生で高校時代はレスリング部。1年夏のインターハイ全国優勝をはじめ、高校3年間全国チャンピオンに君臨した。当時のレスリング部は質量ともに他のクラブを圧倒。

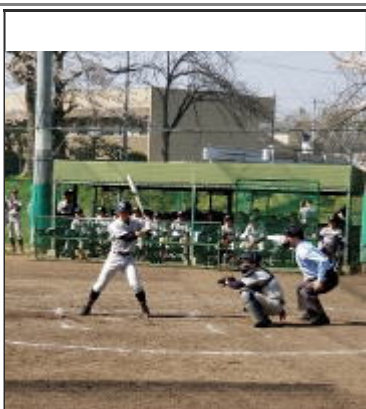
顧問になった時に「素材は良いのに、頑張れきれない集団」に業を煮やし、朝練を担当し、文字通り「闘魂」を注入した。この2年間は文部科学省へ出向。そして3年ぶりに帰ってきたが、始業式翌週から硬式野球部の朝練を待ち構えてグラウンドに立っていた。

硬式野球部 [TOP PAGE](#)へ

2018年3月度のトピックス

3月27日

残り僅か数試合、生き残りを賭けたB戦



この日はAチームはアウェイでの試合に出かけたが、残ったチームは関西遠征にきている甲子園の経験もある中越Bチーム(新潟県)とダブルを行った。
4月GWからのB戦は新チームの戦力発掘のための試合となるため、新3年生にとっては残り数試合のサバイバルとなる。ここで試合で使える目処が立たないと、春季大会のメンバー入りはかなり厳しい。また新2年生にとっても、この時期にBにいれば、新チーム以降の「戦力」となることはかなり厳しくなる。2連勝という結果よりも個々人の内容が問われており、まだまだ成果は乏しい。

3月25日

新入生が練習に初参加



新入生の入部希望者がこの日の解禁日にグラウンドに集合し、練習に初参加した。この日はダブルの練習試合だったが、昼休みには早速軽くシートノック。試合後にはレギュラーに混じってシートノックを行い、続く守備シートでは数人が指名されて守備についた。

里井監督は「今年は試合の一本目を任せるAグループとそれ以外に明らかな差がある。ひとりでも多く上級生を脅かす存在が出てきてくれれば」と期待を込める。

3月23日

関東の雄・作新学院に連勝



春休みに入り、連日の練習試合だが、山場と目される試合がいくつかある。ここまで東海大相模は雨で流れたが、神戸国際大附には1勝1敗し、センバツ前の高知には快勝。この日は関西遠征にきている関東の雄・作新学院を迎えた。

第1試合は西成が序盤に制球に苦しみながらも被安打3で完投勝利。第2試合はこの春成長著しい田村が初回到2点を献上したが、以降大崩れせず完投勝利を収めた。

明日以降も市川、市立和歌山、高田商など甲子園出場経験のあるチームとの対戦を控えている。

3月10日

練習試合が解禁、新戦力は現れるか



8日から対外試合が解禁された。一昨日は試合後半にグラウンドが水浸しになる中でのサヨナラ負けとなったが、この日は好天に恵まれ、気温も上昇。第1試合、第2試合とも大量得点で大勝した。

まだまだ結果に一喜一憂する段階ではないが、メンバー当落線上の3年生にとって、結果でアピールできるのは、春休みのB戦数試合。そんな悠長な時間がないのも確かである。

3月9日

卒業前の3年生がグラウンドへ挨拶に



10日に卒業式を控えた3年生がグラウンドを訪れ、スタッフや現役部員に巣立ちの挨拶をした。卒業当日は午後から試合のため、なかなかゆっくりと時間が取れないと判断し、この日に実施されたから、井上現主将からは「先輩たちから多くのことを学ばせていただいた。またグラウンドも戻ってきて指導して欲しい」と挨拶があり、長谷川前主将(写真中央)からは「自分たちが達成ではなかった甲子園出場を達成して欲しい」とエールが送られた。

すでに大学硬式野球部の練習に参加している者、準硬式で頑張る者、軟式野球部で、社会人野球でと進む道はそれぞれだが、原点はここ三室戸グラウンドであることを心に秘め、頑張ってもらいたい。

3月7日

本校生徒が一足お先に100回大会へ



写真は高校2年の文科コース・横川智哉君。国語科で高校2年文科コース全員が応募した朝日新聞社・朝日放送主催の「第100回全国高等学校野球選手権記念大会キャッチフレーズコンクール」で優秀賞を受賞した。

全国から15000作品の応募があり、優秀賞に選ばれ、この日、メモリアルルームで新聞社からの取材を受けた。一足お先に甲子園へという金星。作品は、「百回分の汗と涙が、ここにある」とのこと。

3月4日

学年末テスト終了し、全体練習再開



学年末テストが終了し、2日から全体練習が再開された。この日を待っていたかのように、気温は上昇。まさしく「春」の陽気で、部員たちも「待ってました」とばかりに、キビキビとグラウンドを動き回った。

秋季大会で見えてきた課題を克服すべく、昨秋から取り組んできたコンバートもかなり板に付き、3日の午後からは紅白戦も行われた。

このまま春を迎えられれば言うことはないが、予報などを確認すると「三寒四温」という言葉が当てはまりそう。

試合は8日からで、この冬の間にとこまで成長したか、楽しみに見守りたい。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2018年2月度のトピックス

2月18日

シードで挑んだ春季大会1次戦抽選会



4月中旬から行われる春季大会の抽選会が行われた。昨年の秋季大会ベスト4がシードされ、センバツに出場する乙訓が2次戦からの登場のため、1次戦は2位校の京都翔英に続いて、ブロック抽選～本抽選を引いた。1次戦はまだ4分の1も終わっていない段階で、早々とブロックの面々が埋まり、初戦は秋も同じブロックの桂との対戦が決定した。

ブロックで最も若い番号であったため、井上主将は2次戦の抽選くじも引くこととなり、ブロック抽選～本抽選と併せて、この日は合計4回のくじを引くことになった。

2月14日

高校入試で合格発表、23名が入部予定



高校入試の合格発表が行われた。一貫生や推薦入試で合格が見込まれる受験生に加えて、専願で2名が合格し、現段階で23名の入部予定となった。海外在住者や留学中の一貫生を除き、この日は19名が入部説明会に参加した。

里井監督から「自分も大学OB。大学でも活躍できる文武両道の選手を目指して欲しい」とまずは新入生に激励。部長から3月25日からの練習参加や硬式野球部のポリシーについて説明があり、その後チームグッズの採寸が行われた。

なお本日参加できなかった希望者には3月3日に第2回が設定される予定である。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2018年1月度のトピックス

1月7日

美味しい!! 恒例の保護者会炊き出し



冬は練習試合がなく、保護者もなかなかグラウンドを訪れる機会がないと、新年の挨拶もかねて実施されている保護者会の炊き出しが行われた。天候に左右されないようにと、昨年から室内練習場で行われており、部員たちはウォーミングアップの後、ベンチやパイプ椅子を手際よく運び準備完了。2年生の保護者を中心に「豚汁」「きなこ餅」「ぜんざい」と次々と運ばれ、部員たちの胃袋を温めてくれた。すっかり定着したこのイベントを部員も楽しみにしている。

最後は部員、スタッフから保護者へ年始の挨拶とお礼を述べ、午後の練習へと向かった。

1月7日

最高のお手本、大学エースが伝授



新年の挨拶に大学で活躍するOBふたりがグラウンドを訪れた。3回生の山上大輔OBと2回生の山下太雅OB。山上OBはこの春秋と右のエースとして活躍し、来秋のドラフト候補。高校時代は春準優勝で、近畿大会で大阪桐蔭相手に力投。山下OBは2年秋に近畿大会準優勝～センバツ出場を果たした。

普段は卯瀧前監督に指導を仰ぐ投手陣だが、この両名が指導を始めると目の輝きが異なる。特にパワーで速い球を投げたがる高校生に、柔らかい筋肉でフォームを作り上げ、7分の力で回転の良い球を投げることを力説。普段の卯瀧前監督の指導を細かくかみ砕き、自ら実践しながら説明してくれた。

1月4日

フルメニューで通学生練習を再開



予定通り9時から通学生練習を再開した。生徒寮の宿泊が6日からのため、全員が集まるのは2日後だが、片道2時間半以上かけて参加する寮生部員も。

年末最終日に掘り起こされたグラウンドを丁寧に整備して、監督・部長から新年の挨拶があり、練習がスタート。もちろん試運転などなく、いきなりフルメニュー。投手陣も全員がブルペン入りし、小気味よい投球を披露し、野手陣もグラウンド全体に響き渡る大声でノックを受けた。

[硬式野球部 TOP PAGE](#) ^